

国際サービスシステム メンテナンスニュース

VOL.17

2001/10/31

国際サービスシステム(株)

排気ガス規制・Nox法・PM規制などと世間が騒いでいるが、そんな事がまっていられるか！とお考えになっているあなた、そんなあなたでも簡単に出来るメンテナンスをご紹介します。

エアークリーナーの話

車は燃料が無いと動かないという事はだれでもご承知の通りですが、もうひとつの大事なものとして**空気**があります。空気が無ければ決して燃料は**燃える**事はありません。

小学生のころ、ろうそくにコップをかぶせると**酸素**が無くなり**火**が消えてしまうという実験をしたと思います。エンジンにおける燃焼もこの通りで、**十分な空気**が不足すると正常な**燃焼**は起こりません。その事から起きるディーゼル車の一番の弊害といえば黒煙です。

この黒煙の発生を最小限に食い止めるには、**エアークリーナーの定期清掃及び定期交換**しかありません。

1. エアークリーナーの役割

エアークリーナーはその名前の通り、エンジン内に吸い込む空気を綺麗にする事にあります。ほこりや砂が混じった空気を吸い込むとエンジン内部のライナーやピストンが異状摩耗したりしてエンジン自身の寿命を著しく縮めます。

2. エアークリーナーの清掃方法(サイクロン型シングルエレメントタイプ)



エンジンはもちろん停止状態でエアークリーナーのクランプを緩めエアークリーナーのダストカップを取り外します。

ウイングスクリューを緩め取り外しエレメントを取り外します。

写真のようにエレメント内側より圧縮空気で清掃します。圧縮空気は7Kg/cm²を越えないようにしてください。清掃後のエレメントを点検してください。ろ紙が破損していたらエレメントはもちろん交換です。

こんなによごれています。

ウイングスクリューは確実に締め付ける事



エアエレメントを取り付けます。**油煙やススで黒く汚れている場合や汚れが酷い場合時期にかかわらず交換**してください。

ダストカップを取り付ける前にダストカップを分解し清掃して取り付けしてください。**取り付けするとき方向指示マークが上を向くように取り付けしてください。(マーク付き)**クランプは確実に締め付ける。

これで終了ですが、くれぐれも清掃に使用したウイス等をエアークリーナー内部に置き忘れたり写真のようにエアークリーナー付近にウイス等を置き忘れないでください。ウイスが吸い込み思わぬトラブルの元になります。

* ここに紹介した清掃例は代表的なエアークリーナーの例です。構造により異なる場合があります。取り扱い説明書等を参照して実施してください。

昨年の東京都自動車整備振興会の調べによると、エアークリーナー等を定期清掃・定期交換する事により、ディーゼルの黒煙低減に平均14%改善される等の効果あるようです。

車のため、地球環境のため是非エアエレメントの定期メンテナンスをお願いします。

以上 ご不明な点、分からない事がありましたら国際サービスにご相談ください。